

## 海苔養殖の委託協業に夢を託して

諸富町漁業協同組合女性部

深町由利香

### 1. 地域の概況

私たちの住んでいる諸富町は、九州一の河川である筑後川の河口にあって、佐賀県の東南部に位置し、東は筑後川を隔てて福岡県大川市に隣接し、南は佐賀郡川副町、西及び北は佐賀市にそれぞれ接している。

主な特産品としては、私達が生産する海苔はもちろんのこと、5月から7月までの短い期間のみ食することのできる、カタクチイワシ科の「エツ」という魚やプリンスメロン、大川市と並ぶ家具などがある。

また、観光面では、高さ23mの可動式鉄橋である筑後川昇開橋<sup>しょうかいきょう</sup>は、筑後川を挟んで諸富町と大川市を結び、かつて旧国鉄の鉄橋だったものが、佐賀線の廃止に伴い「タワーブリッジ遊歩」という名前で観光スポットとして生まれ変わった。

毎年、この場所では7月に町をあげてのイベントである「夏の夜のメルヘン」が開催されている。これは、町民が1つ1つ願いを書いた灯籠を流すイベントで、流れていく灯籠はとても幻想的である。

### 2. 漁業の概要

私達が所属する諸富町漁協は、組合員数158名で、全員が専業漁家で海苔養殖業を主とし、あさり貝養殖、網漁業も行われている。海苔養殖の経営体数は83、うち7経営体が2協業体を営んでいる。養殖規模は、1経営体当たり約31柵、全体で25,890枚あまりの海苔網を張り込んで海苔養殖を営んでいる。

### 3. 女性部の組織と運営

諸富町漁協女性部は、昭和36年6月29日に73名の部員で結成され、現在は78名の部員で、部長1名、副部長1名、班長8名の役員がいる。

女性部の活動として、総会、班長会をはじめ、浜清掃、石けん全戸配布、EM液の配布、漁期前の衣料品販売、海苔祈願祭、棧橋御祓い、生産終了後の漁期反省会、町の産業祭ではラムネ・海苔の販売、バザーをし、もろどみ一番館では海苔の古網も販売している。

ここ数年は海苔価格の低迷などで水揚げが思うようにならず、漁期が終わる3月下旬になるとほとんどの部員が生活費を得るため、何かの仕事に出ている。私も海苔が一段落したら、4～5人で知り合いのタマネギ作業の仕事に行っている。

こうしたことから、一番多い時で145名いた部員も今はその半分になり、海苔時期が終了したからといって、女性部活動も思うようにできないことが、一番頭の痛いところである。

こうした中でも、何かに取り組まなければということで、平成13年度からEM菌を購入してEM液作りと配布をしている。

毎年、海苔の網上げの季節になると、一般の家庭から、網の臭いやハエのことで苦情がきて困っていたが、EM液を網にかけるとハエがわかず、臭いもしなくなると聞き、早速実行したところ、ハエもわかず臭いもしなくなり、何よりも網についている海苔が早く腐れ、網洗いも楽に汚れが落とすことができた。また、毎日の台所やトイレ、風呂場の掃除にと利用し、水の浄化に役立てている。これは、とても小さな活動かもしれないが、家庭から河川へそして海へと流れていくことで、水を汚さず、昔のきれいな流れを取戻せるかもしれないという気持ちで続けている。

#### 4. 課題選定の動機と実践の状況

海苔業界において、佐賀県は全国有数の贈答用高級海苔の生産県として、佐賀海苔ブランドとして位置づけられていた。しかし、平成元年度まで23億枚の消費があった贈答用高級海苔の需要が毎年減少し、また、業務用の増加により単価も低迷し、私たち海苔養殖漁家の経営は大変厳しい状況となっている。

諸富漁協のノリ販売高の推移はグラフのとおりとなっているが、生産枚数は機械の大型化により伸びているものの、1枚当たりの平均単価は年々下がっているのが現状である。

こうしたことから、県内ではコスト削減、作業負担の軽減、省力化のため、海での作業から陸での作業まで全て協業する協業化が平成7年度から始まった。現在、県内では有明地区の13漁協、74グループで協業が行われている。

平成14年度からは、新たに、委託協業という新しい事業が始まった。これは、海苔の摘採までの作業は今までどおり各自で行い、陸の上での乾燥を漁協に委託し、海苔製品の出荷は各自で行うという、つまり乾燥のみを漁協に委託するというカントリー方式である。現在、3漁協、7グループが委託協業を行っている。

私の家の経営状況は、過去5年間(平成10年から14年)の平均水揚げが1,600万円であるが、水揚げ高は年々減少傾向となっている。しかし、それに反するかのように、経費は増加する一方となっている。

このような経営状況や今後の経営について、家族でいろいろと話し合いを行った。まず、大型乾燥機及び船舶の老朽化のために故障が多く、修繕費が多くかかり、また、海苔の乾燥具合もよくなく、良品の品物ができない、また、乾燥機を買い換えるためにはあまりにも高額である、この2点と、あと、家族4人でやっているが、両親も高齢になり、夜間の作業が困難になりつつあるという理由から、将来のことを考えて15年度から委託協業をはじめることにした。

今年度は、秋芽網の生産で入札が2回行われ、12月3日より冷凍網の張り込みが始まったばかりなので、実績として示すことができないが、委託協業を始めて、今までの個人生産と比較してみると生産枚数はさほど変化はないが、等級の低い破れなどのロスが少なくなった。

また、女性の立場からすると、陸での乾燥は委託しているので、時間的に乾燥の時間にしばられることがなくなり、その分、家事や子供たちの世話などに時間が使えるようになった。

とにかく、個人でやっているときは、海上作業、陸での乾燥、家事、子供の学校のことなどなど、毎日毎日、時間にばかり追われていたが、今は、時間的にも精神的にも余裕をもって仕事や家のことができるようになったと実感している。

## 5. 今後の課題や計画

これは、私事であるが、私の実家も海苔養殖を営んでいましたが、持ち柵数が組合員の中でも一番少なく、子供は姉と私しかいなかったのので、両親二人で仕事をしていました。

しかし、古い乾燥機のため生産能力が落ち時間もかかり、また、活性処理という作業が加わり出した頃から、時間にばかり追われるようになった。一方、経費はかさむばかりでとうとう廃業に追い込まれてしまった。

年老いた2人に新しい仕事もなく、内職を夜遅くまでしていが、母が過労で倒れて病気になり他界した。また、父もその3年後の今年の夏交通事故で亡くなった。

このように海苔を続けたいけど、年をとって後継者がいないので続けることができないなど、私の両親のようなケースも他にもたくさんあると思う。

そういった方々をこの委託協業は廃業から救ってくれると思っている。

また、乾燥は委託できるので、何より私たちは海での作業や漁場管理に集中でき、質の良い海苔が生産できると思う。

今、私達が従事している海苔養殖は、そのほとんどが自然環境に大きく影響されるが、それだけではなく、近年の個人の海苔網自体の過剰傾向や、技術の進歩による作業の近代化、機械の大型化により質より量への傾向を生み、今まで順調な伸びを示してきた海苔価格も低迷し、生産コストの上昇や一段と厳しさを増した産地間競争などと相まって、経営への圧迫などの問題が生じてきた。

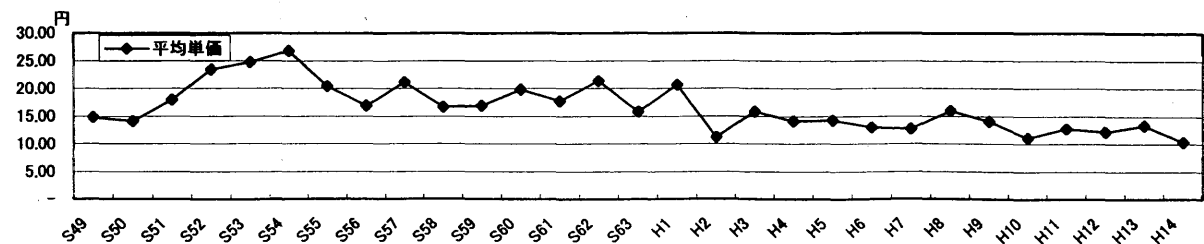
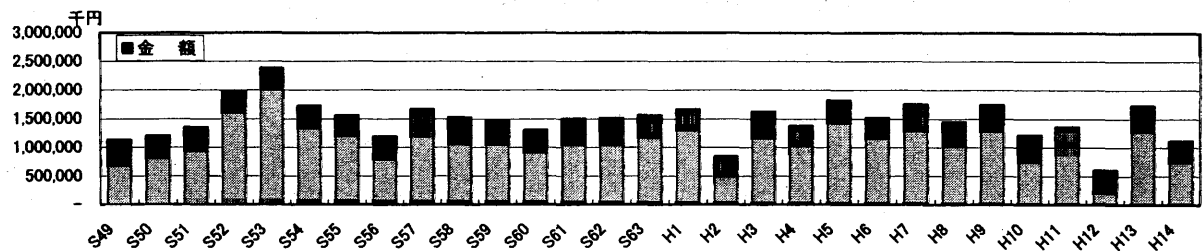
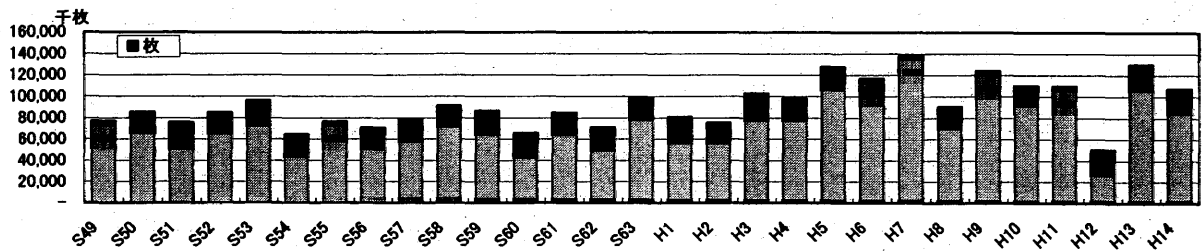
それには、海苔の協業化・委託協業化、漁場の育成・環境改善などにより、基幹産業の海苔養殖と貝類の栽培漁業での周年操業体制の確立が課題と思う。

私達女性部員も一人一人が、女性だからできることは何なのか、なすべき事は何なのかを自分で意識し、考え、自分だけが良ければという考えはなくして、全体が良くなるようにこれからも女性部として生産に、女性部活動に励んでいきたいと思っている。

# 諸富町漁協 / 11販売高推移

(単位:千枚、千円、円)

年度	枚数	金額	平均単価
S49	76,757	1,134,481	14.78
S50	85,324	1,204,296	14.11
S51	75,470	1,355,036	17.95
S52	84,967	1,986,714	23.38
S53	96,314	2,384,053	24.75
S54	64,441	1,725,576	26.78
S55	76,522	1,561,634	20.41
S56	70,876	1,196,661	16.88
S57	78,781	1,666,864	21.16
S58	91,603	1,525,095	16.65
S59	86,715	1,463,720	16.88
S60	65,688	1,302,145	19.82
S61	84,754	1,501,785	17.72
S62	71,095	1,517,334	21.34
S63	99,123	1,567,027	15.81
H1	80,770	1,669,069	20.66
H2	75,247	843,747	11.23
H3	102,795	1,629,881	15.86
H4	97,979	1,382,973	14.11
H5	127,823	1,822,325	14.26
H6	116,664	1,514,736	12.98
H7	138,382	1,754,941	12.68
H8	90,620	1,446,178	15.96
H9	124,123	1,744,398	14.05
H10	110,134	1,219,610	11.07
H11	109,969	1,361,619	12.73
H12	50,416	613,939	12.18
H13	130,197	1,736,316	13.34
H14	107,514	1,117,371	10.39



## 海苔養殖漁家が抱えている問題点

コスト面

異物検査機などの導入による設備投資による生産コストの高騰

上級品(贈答用)の需要減少・業務用(おにぎり)の需要増大など用途構成変化による価格低迷

利益率の低下 → 規模拡大の必要性

労働面

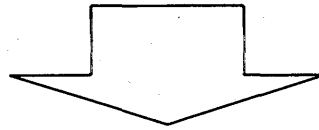
生産者の高齢化、後継者不足、困難な常時雇用労働力の不足による労働力の弱体化

労働強化(規模拡大・活性処理)

環境面

不安定な漁場条件・年によるコスト変動

製造排水の規制、騒音



## 協業化・委託加工事業

コスト面

設備の共同利用、養殖管理の集約化により経費削減、生産コスト削減

労働面

海上・陸上作業の作業の協同化・分業化により作業の効率化や幅広い年齢層の従事ができ、労働力不足も解消

余った労働力を網管理の充実、規模拡大へ

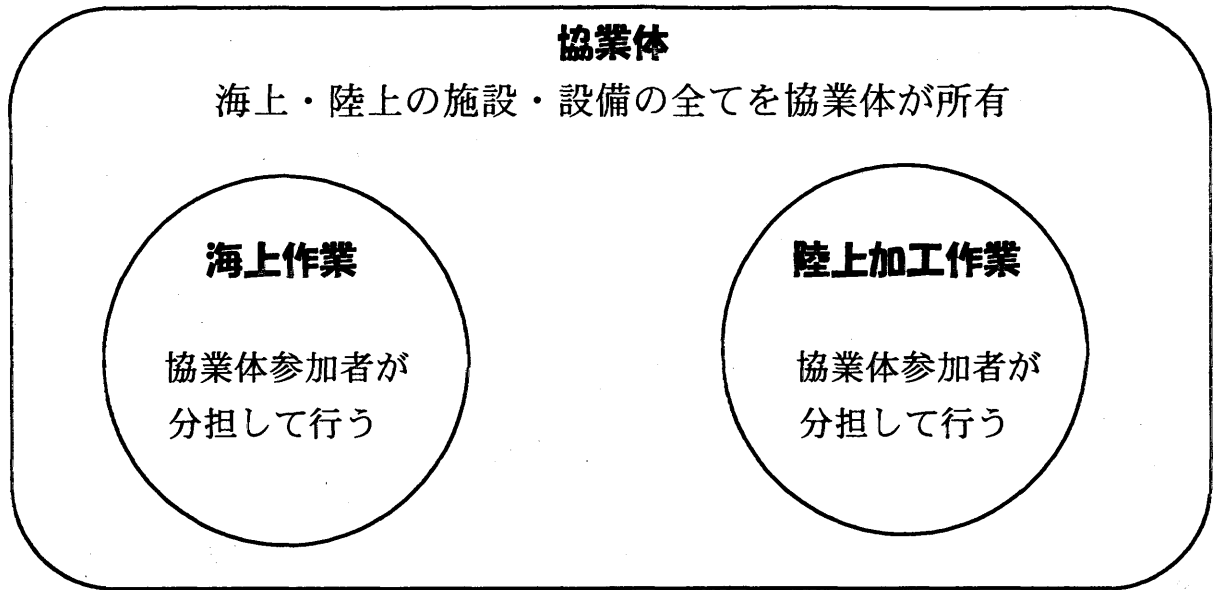
就業年数の延長

環境面

団地化等により、環境上の諸問題解決

# 〔協業体のタイプ〕

## 全面協業タイプ

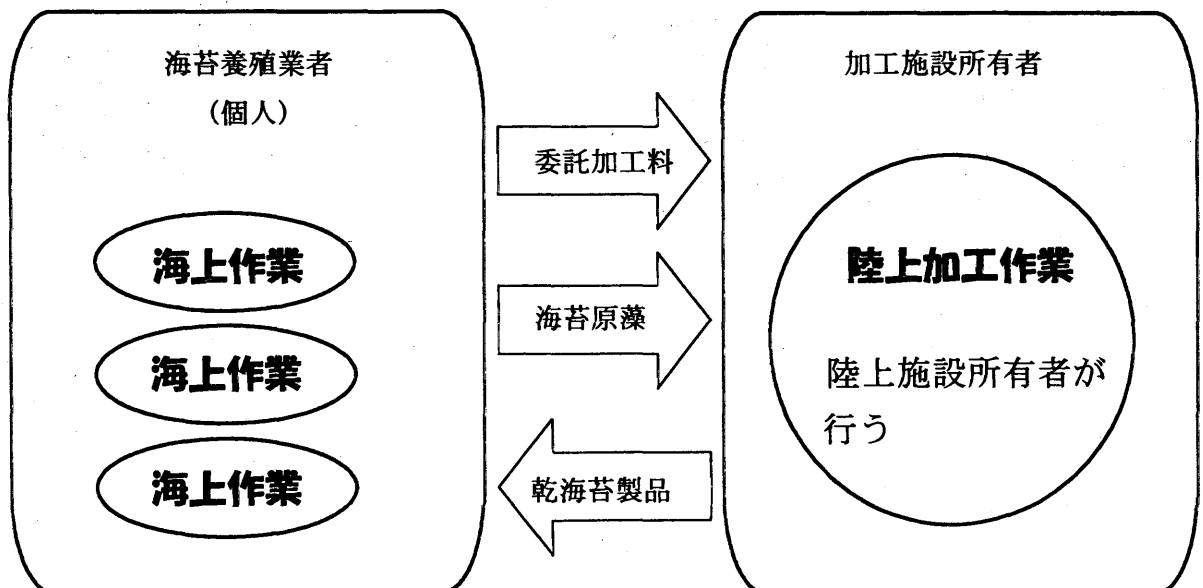


海上・陸上加工作業の全てを共同で行い、全施設を共同で利用するタイプ。

協業体の利益が個人へ配分される。

施設の更新は、協業体が責任を負う。

## 委託加工タイプ



海上作業は各個人で行い、摘み取った原藻を漁協などが整備した陸上加工施設に持ち込み、加工してもらうタイプ。

加工施設所有者に対して、委託加工料を支払う。

施設更新は、漁協(施設所有者)が責任を負う。